

平成20年度質の高い大学教育推進プログラム審査結果表【選定】

機 関 名	宮崎大学				
取 組 名 称	複視眼的視野を持つ国際的医療人の育成				
取組学部等	医学部				
申 請 区 分	教育課程の工夫改善を主とする取組				
整 理 番 号	A11066	申請の形態	単独	取組期間	3年
申請の分類	専門基礎	キャリア		外国語	
キーワード	学部一貫専門英語教育, 包括的人材育成, 海外相互臨床実習, 専門教員との有機的連携, 専門英語能力の客観的評価				

<選定理由>

本取組は、臨床医療の国際化を図る観点から、効果的な医学英語の一貫的教育課程の開発に取り組んだものであり、海外の提携大学との交流を効果的に取り入れたものである。

特に、海外からの臨床実習生を受け入れ、また、本学の学生を派遣するなどして共に学ばせるなど多様な価値観の共有を図る点が高く評価される。さらに、英語を母国語としない大学との交流を通じた英語力の向上という視点が大変ユニークであると評価できる。

ただし、科目が少人数の選択科目にとどまっている点や、教材の作成についての具体的目標が定まっていない点など改善が望まれる点もある。取組の実施に当たっては、これらの改善点に対応しつつ、着実な効果を挙げることを期待する。

取組の概要【1ページ以内】

「複視眼的視野を持つ国際的医療人の育成」

＜プログラムの目的＞

- ・ 専門英語コミュニケーション能力の涵養→自信を持って海外臨床実習で専門領域についての研鑽を積む
- ・ 海外協定大学、開発途上国からの医学・看護学臨床実習生の受入れ→多様な価値観を共有・理解し、複視眼的な視野を持つ医療人の育成



国際社会において指導的役割を果たすリーダーとなるべき人材の育成

21世紀に入り地球温暖化に伴う疾病構造の変化や、鳥インフルエンザに代表される疾病のボーダレス化が急速に進んでいる。特に、新型インフルエンザのパンデミック(世界的流行)が起これば全世界で最悪1億5000万人の死者という事態も予想される。国際社会で日本が果たす役割を考えれば、このような地球規模の感染症対策・医療活動に対応できる人材の育成、とりわけ国際業務を遂行するために必要とされる高度な英語力を備えた医療人の養成は緊急の課題であるといえる。また東南アジアからの看護師就労受入れなど、日本の看護医療をとりまく社会状況も大きく変化している。これら複合的な医療社会構造の変化に対応するため、本学医学部では長期的な視点から以下の包括的人材育成に取り組む。

- ① 海外協定大学(タイ国プリンスオブソンクラ大学:以下PSU、米国カリフォルニア大学アーバイン校:以下UCI)との海外相互臨床実習を実施する。さらに開発途上国(中近東)の医師・看護師を本学に受入れ、国際シンポジウム・学生討論会を通して多様な価値観を共有・理解し、複視眼的思考とリーダーシップを修得させる。
- ② そのために、徹底した少人数クラスによる学部一貫専門英語教育(医学科は1~5年次まで、看護学科は2~4年次まで、附属病院看護部は初級・上級クラス)を系統的に展開する。
- ③ EMPサポートオフィスの機能を充実させ、英語教員、基礎・臨床医学、看護学の専門教員との有機的連携を再構築し学部全体の活動を推進する。そのために、使命感をもってシステム全体を支える多国間医学・看護学教育プログラム専任のプロフェッショナルコーディネーターを育てる。
- ④ 学生の専門英語能力の客観的評価をするために、学習者コーパスの構築、実習のモニタリングを通して客観データに基づいたフィードバックを実施する。

PSUとの取組みについてはすでに過去4年の実績があり、また附属病院では昨年度から研修医の海外相互臨床研修(PSU)も開始されている。特に①についてはPSU学生が本学滞在中は本学EMP学生が日常生活から実習中のケアに至るまで全て英語で対応しており、英語学習上の効果は計り知れない。それにも増して、本学およびPSUにおける2ヶ月間を通して、他国の医学生と一生涯にわたる信頼関係と友情の礎を築くことができたと参加者が実習後の感想を述べている。このプログラムに興味を持って受験する学生も多く、今後本学のアドミッションポリシーに反映させ、地方大学における人材育成のモデルプランとして発展させたい。